

第29回 2019年

3/16(土) - 3/17(日)

大山とうふまつり



大山とうふまつり実行委員会

☎ 090-2322-6599

大山と豆腐の歴史

大山は、山岳信仰の霊山として、また農民からは水を司る神として、漁民からは航海の目印ともなる海の守護神として古くから崇拝されていました。ここに阿夫利神社が創建されたのは、社伝では紀元前97年とされています。

また大山寺の開山は早く、奈良時代の天平勝宝7年(755)に、華嚴宗の良弁(ろうべん)僧正が入山したことによるとされています。良弁僧正は、日本に華嚴宗を広めた僧で、奈良東大寺建立に尽力し、初代別当になった人です。一説によれば、相模の人とも言われています。

平安時代には、神仏習合思想により山頂の阿夫利神社には石尊大権現が、山腹の大山寺には不動明王が祭られて、大山全体で神仏一体の姿ができあがりました。以降の大山は、僧侶と修験者、神職の三者で維持されていくこととなります。

朝廷の庇護も受けた大山信仰は、武士の間にも広がっていきました。鎌倉幕府を開いた源頼朝を始め、足利尊氏、小田原北条氏等、多くの武士の信仰の対象になりました。

そして時代は江戸に移り、家康は慶長10年(1605)、大山の大改革を「寺院法度三ヶ条」により行いました。これにより、山上にいた多くの修験者や妻帯の僧らが前不動から下におろされ、大山と蓑毛(秦野市)に定住して御師になりました。

改革の後、江戸幕府は、春日局や高僧を度々代参に送り、将軍家のための加持祈禱を行い、同時に寄進などの経済的な援助を実施しています。将軍家との結びつきが強まる一方、江戸市民の中の知識人や上層商人の間でも、大山の存在が認識されるようになり、大山信仰は江戸の市民にも広がっていきました。

この背景には、御師たちが江戸をはじめとした諸国の村々を廻り檀家を獲得し、大山信仰の布教や講の結成、参詣者の勧誘に努め、さらに参詣者への宿泊場所の提供、寺社への案内等を行うようになったことも大山発展の大きな原動力になったと考えられます。

また、江戸の町の人口が増えたことも大山を発展させた一因です。徳川家康は、江戸幕府を開くと、諸国の大名に命じて、大規模な海岸埋立工事などの基礎整備に着手。

さらに、二代将軍秀忠は天下の政庁にふさわしい城をめざして、継続的な江戸城の大拡張を始め、三代将軍家光の時に天守閣、大手門、本丸御殿などの江戸城の主な建物が完成しました。できあがった江戸の町には、旗本や諸大名、商人、職人など、多くの人に住む

ようになり、開幕当時の寒村が天明のころには135万人を超える人口を持つ大都市に変貌しています。大都会江戸の町から見える霊峰大山に人々は憧れ、江戸の人口の増加と比例して、参詣者は増加していったのではないのでしょうか。

この頃になると、宿泊の形態も「木賃宿」から一泊二食付きの「旅籠」へと移り変わり、御師たちが食していた精進料理である豆腐料理が広まっていきました。

今でこそ「大山と言えば、豆腐料理」と言われるほど有名な名物となりましたが、それにはいくつかの理由が考えられます。

例えば、「参詣者に供給する大量の食糧を保存しておく設備がないため、井戸水などの冷水につけて保存できる豆腐などは、最適の食糧であったこと。」

「豆腐の製造と保存に適した霊峰大山の良質の水が使われたこと。」

「江戸の発展と共に大幅に参拝者が増えていったこと。」

「豆腐が修験者や僧職経験者が食べ慣れた精進料理だったこと。」

「大山の御師たちが配札や祈禱、日侍行事などを行い、謝礼として受け取り集められた大豆などの豊富な原材料が大山に集中したこと。」…など。

このように多くの要因が複合し、高品質の豆腐が大山に生み出され、さらに育っていったために「大山の名物=豆腐」という図式ができあがったのです。

話を歴史の方に戻しますと、大山は、江戸中期になると、江戸の大火、関東の大洪水・飢饉、都市の打ちこわし、農民一揆などが続き、人々が神仏にすがろうとし、大山信仰もさらに盛んになりました。

そして、参拝者のさらなる増加に伴い、多くの大山街道が整備され、参詣者と御師の往来はますます頻度を増し、門前町としての大山も最盛期を迎えることになりました。

山頂の「石尊大権現」と中腹の「別当寺雨降山大山寺」を中心に栄えてきた大山は、明治元年に神仏判然令が出されると、神社と大山寺に分かれ、石尊大権現は「阿夫利神社」に社号復元がされます。

また、同6年には国学者権田直助を迎え、その指導によって御師は先導師に改称するなど、神仏分離後の大山再興に向けた努力が行われています。

その後も、信仰の山として、豆腐料理の里として、多くの善男善女を迎え、さらに最近では首都近郊の手軽な観光地としても多くの人を集めています。

恒例!達人たちとの食談

その道の達人たちのパフォーマンスと

大山名物のとうふ料理を堪能し、身も心も暖めよう…



薩摩流琵琶演奏会

会場：蓬生亭逸見
(TEL 0463-94-3476)
3/17(日) 12:00~
¥10,000-

荒井 姿水 (薩摩流琵琶女流奏者)

荒井 靖水 (薩摩流琵琶奏者)

【演目】「竹生島」荒井姿水
「鞍馬山」荒井靖水 笛:山田路子
笛 ソロ一曲

荒井 姿水 プロフィール

日本琵琶学協会主催コンクール1位、文化大臣奨励賞、NHK会長賞受賞。古典曲の演奏を主とするが前衛舞、朗読など他のジャンルとの共演も多い。

相模流里神楽「わかりやすい里神楽」

会場：松鈴庵・夢心亭(食事)
(TEL 0463-93-6289)

3/17(日) 16:30~20:30 ¥10,000-

出演：相模里神楽垣澤社中

【里神楽】「稻荷山」、神楽囃子、舞の体験 など

●相模里神楽垣澤社中 社中紹介

里神楽は「古事記」や「日本書紀」など、古代日本の神話を題材にした仮面黙劇です。江戸中期に江戸で完成した里神楽は、相模地方にも伝わり、愛甲神楽として盛んに演じられていました。愛甲神楽から明治45年に垣澤社中が「相模里神楽」として発足し、相模流の流派を今日に伝えています。里神楽は多彩な芸能であり、通常の「里神楽」以外にも、神の前で奉納する「神前舞」、歌舞伎を神楽風に演じた「面芝居」、神輿と共に祭りを囃し立てる「祭囃子」、正月やおめでたい饗宴で演じられる「獅子舞」など、様々な芸を披露しております。垣澤社中は、神社の祭礼公演を中心に活動しているほか、全国各地で開催された国民文化祭、国際仮面舞フェスティバルでの海外公演、「かながわのお神楽」自主公演、2010かながわ民俗芸能祭、厚木市郷土芸能まつり、市内の学校公演、大学でのワークショップ、CM出演など、様々な活動を行っています。



食談チケットについて

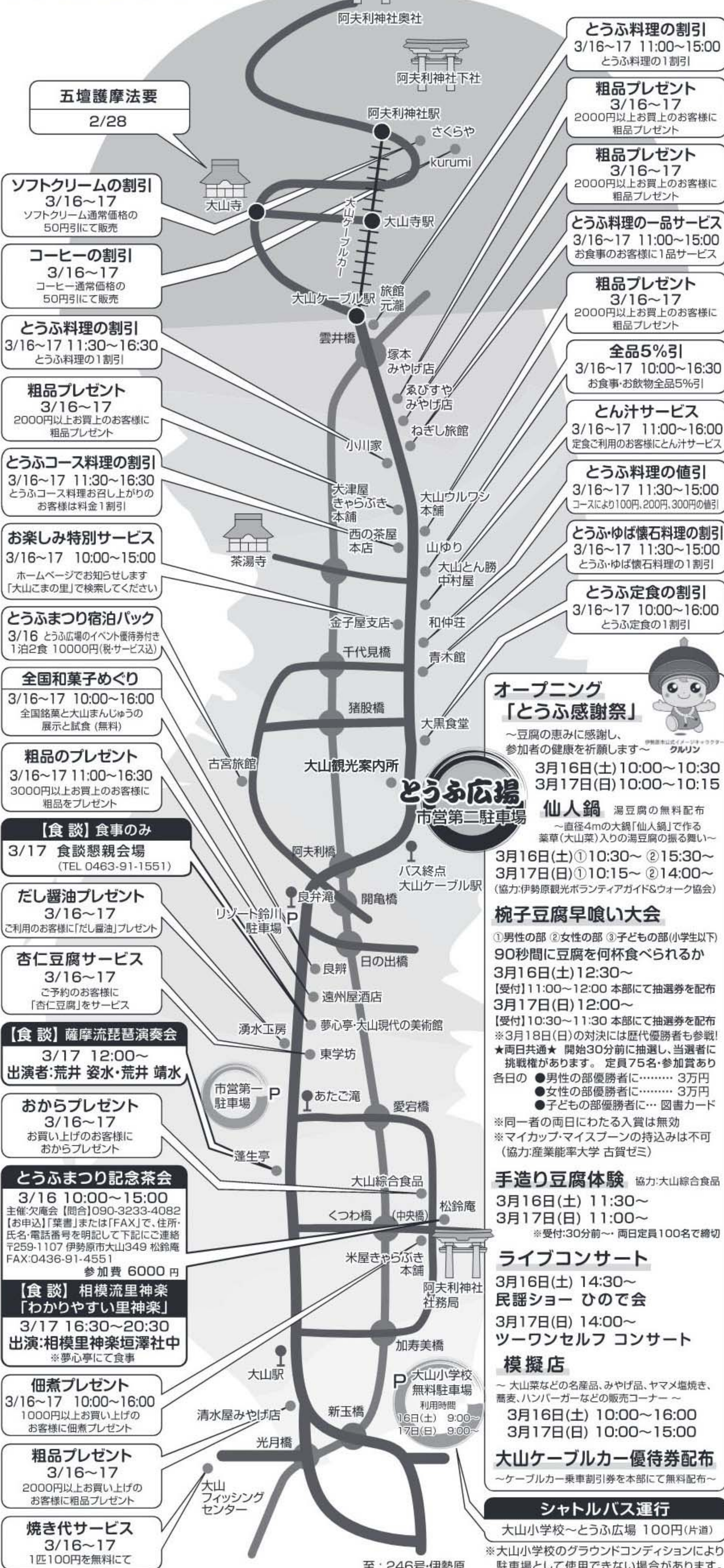
3. 販売場所・・・各会場、

または「大山とうふまつり実行委員会」事務局 **090-2322-6599**

1. 発売日・・・2019年2月1日より

2. 販売数・・・各会場 30枚~40枚 くらい

大山どうふまつり イベントマップ



五壇護摩法要
2/28

ソフトクリームの割引
3/16~17
ソフトクリーム通常価格の
50円引にて販売

コーヒーの割引
3/16~17
コーヒー通常価格の
50円引にて販売

とうふ料理の割引
3/16~17 11:30~16:30
とうふ料理の1割引

粗品プレゼント
3/16~17
2000円以上お買上のお客様に
粗品プレゼント

とうふコース料理の割引
3/16~17 11:30~16:30
とうふコース料理お召し上がりの
お客様は料金1割引

お楽しみ特別サービス
3/16~17 10:00~15:00
ホームページでお知らせします
「大山こまの里」で検索してください

とうふまつり宿泊パック
3/16 とうふ広場のイベント優待券付き
1泊2食 10000円(税・サービス込)

全国和菓子めぐり
3/16~17 10:00~16:00
全国銘菓と大山まんじゅうの
展示と試食(無料)

粗品のプレゼント
3/16~17 11:00~16:30
3000円以上お買上のお客様に
粗品をプレゼント

【食談】食事のみ
3/17 食談懇親会場
(TEL 0463-91-1551)

だし醤油プレゼント
3/16~17
ご利用のお客様に「だし醤油」プレゼント

杏仁豆腐サービス
3/16~17
ご予約のお客様に
「杏仁豆腐」をサービス

【食談】薩摩流琵琶演奏会
3/17 12:00~
出演者:荒井 姿水・荒井 靖水

おからプレゼント
3/16~17
お買い上げのお客様に
おからプレゼント

とうふまつり記念茶会
3/16 10:00~15:00
主催:欠庵会【問合】090-3233-4082
【お申込】「葉書」または「FAX」で、住所・
氏名・電話番号を明記して下記にご連絡
〒259-1107 伊勢原市大山349 松鈴庵
FAX:0436-91-4551
参加費 6000円

**【食談】相模流里神楽
「わかりやすい里神楽」**
3/17 16:30~20:30
出演:相模里神楽垣澤社中
※夢心亭にて食事

佃煮プレゼント
3/16~17 10:00~16:00
1000円以上お買い上げの
お客様に佃煮プレゼント

粗品プレゼント
3/16~17
2000円以上お買い上げの
お客様に粗品プレゼント

焼き代サービス
3/16~17
1匹100円を無料にて

とうふ料理の割引
3/16~17 11:00~15:00
とうふ料理の1割引

粗品プレゼント
3/16~17
2000円以上お買上のお客様に
粗品プレゼント

粗品プレゼント
3/16~17
2000円以上お買上のお客様に
粗品プレゼント

とうふ料理の一品サービス
3/16~17 11:00~15:00
お食事のお客様に1品サービス

粗品プレゼント
3/16~17
2000円以上お買上のお客様に
粗品プレゼント

全品5%引
3/16~17 10:00~16:30
お食事・お飲物全品5%引

とん汁サービス
3/16~17 11:00~16:00
定食ご利用のお客様にとん汁サービス

とうふ料理の値引
3/16~17 11:30~15:00
コースにより100円、200円、300円の値引

とうふ・ゆば懐石料理の割引
3/16~17 11:30~15:00
とうふ・ゆば懐石料理の1割引

とうふ定食の割引
3/16~17 10:00~16:00
とうふ定食の1割引

**オープニング
「とうふ感謝祭」**
~豆腐の恵みに感謝し、
参加者の健康を祈願します~
伊勢原市山王イグレット・クラウン
クルリン

3月16日(土) 10:00~10:30
3月17日(日) 10:00~10:15
仙人鍋 湯豆腐の無料配布
~直径4mの大鍋「仙人鍋」で作る
薬草(大葉菜)入りの湯豆腐の振る舞い~
3月16日(土) ①10:30~ ②15:30~
3月17日(日) ①10:15~ ②14:00~
(協力:伊勢原観光ボランティアガイド&ウォーク協会)

梔子豆腐早喰い大会
①男性の部 ②女性の部 ③子どもの部(小学生以下)
90秒間に豆腐を何杯食べられるか
3月16日(土) 12:30~
【受付】11:00~12:00 本部にて抽選券を配布
3月17日(日) 12:00~
【受付】10:30~11:30 本部にて抽選券を配布
※3月18日(日)の対決には歴代優勝者も参戦!
★両日共通★ 開始30分前に抽選し、当選者に
挑戦権があります。定員75名・参加賞あり
各日の ●男性の部優勝者に…… 3万円
●女性の部優勝者に…… 3万円
●子どもの部優勝者に… 図書カード
※同一者の両日にわたる入賞は無効
※マイカップ・マイスプーンの持込みは不可
(協力:産業能率大学 古賀ゼミ)

手造り豆腐体験 協力:大山綜合食品
3月16日(土) 11:30~
3月17日(日) 11:00~
※受付:30分前~ 両日定員100名で締切

ライブコンサート
3月16日(土) 14:30~
民謡ショー ひので会
3月17日(日) 14:00~
ツーワンセルフ コンサート

模擬店
~ 大山菜などの名産品、みやげ品、ヤマメ塩焼き、
蕎麦、ハンバーガーなどの販売コーナー ~
3月16日(土) 10:00~16:00
3月17日(日) 10:00~15:00

大山ケーブルカー優待券配布
~ケーブルカー乗車割引券を本部にて無料配布~

シャトルバス運行
大山小学校~とうふ広場 100円(片道)
※大山小学校のグラウンドコンディションにより
駐車場として使用できない場合があります。

協賛会社ご芳名一覧

大山観光案内所

小田急電鉄(株)

大山阿夫利神社

市川商事(株)

大山寺

大塚水産(株)

大山先導師会旅館組合

伊勢原市商工会

伊勢原市農業協同組合

井田興業(株)

神奈川中央交通(株)

産業能率大学

三之宮比々多神社

(宗)思親会

山田プロパン(株)

青木館

(株)泉八

(宗)伊勢原大神宮

(一社)伊勢原市観光協会

伊勢原ホーム

(有)岩沢醸造

Wood Craft(株)kurumi

糸びすやみやげ店

(有)えびや

遠州屋米穀店

大木旅館

大山飲食店物産組合

大山商業組合

大山観光電鉄(株)

大山きゃらぶき本舗

(有)大山綜合食品

大山とん勝中村屋

大山フィッシングセンター

とうふ処 小川家

(有)奥井石材店

宿坊 かげゆ

カサハラ印刷(株)

(株)柏木牧場

(公社)神奈川県観光協会

神奈川日産自動車(株)

小出商店

越水行政書士事務所

旅館 こみや

米屋きゃらぶき本舗

(株)コンパス

さくらや

貞晃寺

(有)シンエイ

スマイルゼミ寺子屋

山荘 だいとう

米本舗 (有)瀧本屋

(株)立富

(有)谷和

(株)茶加藤

中栄信用金庫伊勢原支店

中南信用金庫伊勢原支店

塚本みやげ店

東學坊

(有)都市設計

西の茶屋

花呉装

普濟寺

フジケース(株)

(有)マイティースポーツ

(有)丸興商会

海鮮市場 マルモト

(有)水野商店

夢心亭

旅館 もとだき

守屋税務事務所

山ゆり

湧水工房

横浜銀行伊勢原支店

蓬生亭 逸見

ラ・雅寿

良辨

(株)渡辺工務店

和仲荘

地酒「伊勢原」

主催：大山とうふまつり実行委員会

後援：伊勢原市、神奈川県、(一社)伊勢原市観光協会、(公社)神奈川県観光協会、
大山観光振興会、**tvk**、神奈川新聞社、朝日新聞横浜総局、
読売新聞横浜支局、毎日新聞横浜支局、産経新聞横浜総局、
東京新聞横浜支局、日本経済新聞社横浜支局

お問い合わせ・お申し込みは